

知床エコツーリズム戦略の見直しの方針

1. 知床エコツーリズム戦略見直しの方向性

遺産管理計画において、知床エコツーリズム戦略（以下、エコツー戦略）を遺産管理計画の下位計画に位置づけたことを踏まえ、エコツー戦略においても記載事項の見直しを行う。

見直しにあたっては、地域の自然・文化・歴史などの価値を基盤とし、それぞれの場所の価値に応じた利用や体験のあり方を整理する。

この考え方は、地域の価値を整理し来訪者への伝え方を検討する IP 全体計画（以下、IP）と共通しており、従来の価値整理に加えて IP の視点を反映することで、エコツー戦略における利用や体験の方向性を明確にする。

2. エコツー戦略への主な反映事項

① 位置づけの明確化

- 遺産管理計画にエコツー戦略が下位計画として位置づけられたことを踏まえ、戦略の役割（価値の共有、利用の方向性の提示、具体的方策の指針）を明文化する

② 構成の見直し

- 戦略を「価値・現状整理」「価値に基づく空間整理（ゾーニング）」「基本方針」「具体的方策」からなる構成へ見直す。
- ゾーニングを、価値をもとに場所を整理するための基本として位置づけ、具体的方策を展開する構成とする（価値→現状→戦略→方策という構成）。
- 長期的な方向性と実装を区別した構成とし、エコツー戦略の理解しやすさを高める。

③ IP における価値・ストーリーの反映

- IP で整理される価値、ストーリー及びメッセージを戦略に反映する。
- これにより、エコツー戦略が価値共有の基盤となるとともに、望ましい利用や体験の方向性を示す指針として機能するよう見直す。

④ ゾーニング規定の明確化

- 遺産管理計画に基づき、価値を基盤とし、自然環境や利用状況を踏まえてゾーニングを規定する。
- ゾーニングは、IP で整理する価値を基盤として、「ゾーニングとイメージ（案）」を基本フレームとし、エコツー戦略で整理された「守るべき知床の価値」等の既存整理を踏まえて価値を場所ごとに整理する枠組みとして位置づける。
- ゾーニングを前提として、利用コントロールや施設整備等の具体的方策を展開する。

⑤ 「リスクマネジメント」に関する項目の追加

- 斜里町のアクティビティリスク管理との整合を図りつつ、ゾーニングや利用方針と連動したリスクマネジメントを記載する。
- 観光船事故および羅臼岳におけるヒグマ人身事故の教訓を踏まえ、自然リスクを前提とした安全対策の理念、予防的管理、リスク情報の提供、現場判断、関係機関の連携の考え方を整理する。
- 半島全体での適用可能性について調整を行う

① 既存計画の整理・統合

- 利用適正化計画やエコツーリズム推進計画等の既存計画について、階層関係と役割を整理する。

- ・本戦略を価値共有およびゾーニングの基盤計画として位置づけ、既存計画との関係を明確化する。

3. 戦略の実行体制の再構築

- ・検討会議、WG、関係行政機関、地域事業者等の役割分担、政策決定手順および意思決定の流れを整理し、戦略本体に明記する。
- ・実施体制や会議運営の具体的な運用規則を定めている「エコツーリズム戦略 事務取扱要領」についても、戦略の改訂と同時に見直しを進め、戦略との整合を図る。

知床エコツーリズム戦略の構成の見直し（案）

| 現行 | 見直し（案） |
|---|---|
| 1. はじめに | 1. はじめに |
| 2. 戦略の目的 | 2. 知床の観光・エコツーリズムをめぐる現状と課題 2-1 守り、伝えるべき知床の価値 (1) 自然に関する価値 (2) 人と自然の関わりについての価値 (3) 非日常性から得られる価値 2-2 観光やエコツーリズムの現状と経緯 2-3 観光やエコツーリズムをめぐる課題 (1) 現在生じている課題 (2) 今後予想される課題 |
| 3. 現状と課題 (1) 観光やエコツーリズムの現状と経緯 (2) 現在生じている課題 (3) 今後予想される課題 | 3. 価値に基づく空間整理（ゾーニング） 3-1 ゾーニングの基本的考え方 3-2 ゾーン区分と価値の整理 3-3 ゾーンごとの基本的な利用の方向性 |
| 4. 既存の法律、制度、ルール | 4. 戦略の目的・対象・関係者・実行体制等 4-1 戦略の目的 4-2 戦略の対象 (1) 戦略の対象となる地域 (2) 戦略の対象となる活動 (3) 戦略の対象となる来訪者 4-3 既存の法律、制度、ルール、およびこれらと戦略との関係 |
| 5. 基本方針 (1) 基本原則 (2) エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点 | 5. 基本方針 5-1 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上 5-2 世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供 5-3 持続可能な地域社会と経済の構築 |
| 6. 戦略の対象 (1) 戦略の対象となる地域 (2) 戦略の対象となる活動 | 6. 具体的方策 6-1 利用コントロール 6-2 守るべきルールの設定と指導 6-3 情報の発信 6-4 ガイドの育成とガイド利用の推奨 6-5 文化的資産等の活用 6-6 利益の還元 6-7 施設整備 6-8 モニタリング 6-9 リスクマネジメント 6-10 知床の価値を伝えるストーリーの伝達 |
| 7. 守るべき知床の価値 (1) 自然に関する価値 (2) 人と自然の関わりについての価値 (3) 非日常性から得られる価値 | 7. 戦略の実行体制 7-1 検討会議及びWGの構成と運営 7-2 エコツーリズムを含む観光利用に関する政策決定手順 |
| 8. 将来目標 | 8. 見直しの手法、期間 |

| | |
|--|--|
| <p>(1) 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上 (2) 世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供 (3) 持続可能な地域社会と経済の構築</p> | |
| <p>9. 具体的方策 (1) 利用コントロール (2) 守るべきルールの設定と指導 (3) 情報の発信 (4) ガイドの育成とガイド利用の推奨 (5) 文化的資産等の活用 (6) 利益の還元 (7) 施設整備 (8) モニタリング</p> | |
| <p>10. 戦略の実行体制 (1) エコツアーリズムを含む観光利用に関する政策決定手順 (2) 検討会議の構成と運営</p> | |
| <p>11. 見直しの手法、期間</p> | |